

関連科目 <こども関連科目>	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育原理	教職小	17521	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
澤井 一夫	選択	2	県教育委員会勤務		

授業の到達目標

1. 教育の理念と目的について理解する。
 2. 教育に関する歴史及び思想について理解する。
 3. 日本と諸外国の学校制度について理解する。
 4. 現代社会における教育の現状と課題について理解する。
- このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。

授業の概要

教育学上の重要な理念について理解した上で、教育思想及び学校制度の歴史の変遷について理解を深める。このことを踏まえ現在の社会における教育課題や学校教育の在り方について考察する。

授業計画

1. 講義の進め方と講義概要について説明する。
2. 人とは？教育とは？
3. 学校の歴史 その1 諸外国の教育の思想と歴史
4. 学校の歴史 その2 日本における学校制度の成立と展開
5. 教育に関する法規
6. 現行法における日本の学校教育の目的
7. 教育課程と教育内容
8. 学習指導要領の変遷
9. 教師の仕事と専門性
10. よい授業とは
11. 現代社会と教育問題—いじめ・不登校問題など
12. 教育改革の新しい動きと方向について
13. 日本と諸外国の教育制度
14. 生涯学習の意義と生涯学習の機会
15. まとめとテスト

授業の方法

講義を中心に討議や発表を設ける。

準備学修

本講義は、「教育とは何か」「学校制度」などを歴史的な視点や諸外国との比較で研究し考察する。教育に関する思想家や法規など耳慣れない事項がでてくるため、関連する事柄について予習と復習

を必ず行うこと。Webで参照すること。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

学内の規定に準ずる。

テキスト

- ・「問いからはじめる教育学」 勝野 正章・庄井 良信著 出版社：有斐閣
- ・取得を希望する校種の学習指導要領総則解説（幼稚園教育要領解説）
その他 必要に応じて資料を配付

参考図書

- ・「はじめての子どもの教育原理」 福元真由美著 出版社：有斐閣
- ・「やさしい教育原理」 田嶋 一他著 出版社：有斐閣
- ・「教育の原理を学ぶ」 遠藤 克弥・山崎 真之著 出版社：川島書店

留意事項

教職を目指す学生として、講義内容をただ受容するだけでなく、自ら問題意識を持って主体的に研究し学ぶこと。

関連科目 <こども関連科目>	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
子ども家庭福祉		17523	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
久松 睦典	選択	2	公立中学校スクールカウンセラー		

授業の到達目標

現代を生きる子ども達の状況は、厳しい社会状況を反映し、大きく変化しつつある。社会の歪から子どもの発達を守り、健やかな成長を促すためには、社会、学校、家庭の三者教育のバランスのとれた教育と、それを積極的にバックアップする行政の取り組みの必要性が求められている。そうした状況下では、子育て支援や健全育成のためのより高度な専門的な知識を要求する「児童家庭福祉」の指導者としての資質が一層問われることになる。KAISEIパーソナリティのK（思いやり）をベースにしてコミュニケーション能力を養う。

授業の概要

最近の児童を取り巻く社会環境も変容し、価値観も大幅に多様化するとともに、様々な問題群も続出してきた。児童が社会構成の一員として、大人社会にあっても常に暖かく迎えられるよう児童家庭の問題と児童福祉に対する正しい概念を身につけなければならない。どのようにして地域社会の保障と支援が行えるか、児童福祉の今日的課題を考察し、その実態とその基本的な知識の習得、目的と方策を学ぶ。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 子ども家庭福祉とは
3. 子ども家庭福祉のあゆみ
4. 子どもと家庭の支援活動指針としての子どもの権利条約
5. 子どもと家庭を支援する法律の体系
6. 子どもと家庭を支援する制度の体系
7. 子どもと家庭を支援する施設の体系
8. 子どもと家庭を支援する専門職
9. 子どもと家庭を支援する活動方法
10. 子どもと家庭に関する問題と社会福祉の対応—虐待について
11. 子どもと家庭に関する問題と社会福祉の対応—親子関係
12. 子どもと家庭に関する問題と社会福祉の対応—非行
13. 子どもと家庭に関する問題と社会福祉の対応—保育
14. 子どもと家庭に関する問題と社会福祉の対応—一人親家庭
15. 子どもと家庭に関する問題と社会福祉の対応—貧困

授業の方法

講義のテーマや単元に応じて作業課題を実施する。テーマについて、グループ討議し、発表する。またミニテストも実施する。

準備学修

できるだけ日常の新聞報道などで児童福祉に関する記事に目を通す。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

一回の欠席で3点、遅刻で2点減点し、欠席が5回以上で不合格とする。

テキスト

吉田眞理編『児童の福祉を支える子ども家庭福祉』 萌文書林

参考図書

適時紹介する。

オフィスアワー

講義の前夜

ET 教職科目 <ET 教職科目>	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
特別活動論	教職中等		14185	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
澤井 一夫	選択	2	県教育委員会勤務			

授業の到達目標

特別活動は、「様々な集団の中で体験を通して人としての生き方を学ぶ」場である。教育課程における位置づけと意義を理解し「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」の三つの視点、他教科との往還的な関連、地域との連携など特別活動の特質を踏まえ教師として指導に必要な基礎的知識を身につける。

このクラスではKAISEIの1(知性)を養う。

授業の概要

特別活動の意義から学校の具体的な実践までを、歴史的な経緯を踏まえながら学習する。

1. 特別活動の歴史的な経緯を踏まえ意義や目標を理解する。
2. 特別活動の4つの内容である「学級活動(ホームルーム)」「生徒会活動(児童会活動)」「クラブ活動(部活動)」「学校行事」について理解する。
3. 特別活動の内容について、実践例などを参考にしながら、具体的に各指導計画をたて指導の在り方について考察する。

授業計画

1. 講義の進め方と概要を説明(オリエンテーション)
2. 教育課程における特別活動の位置づけ
3. 特別活動の歴史の変遷
4. ① 各校種における特別活動の内容と目標
② 特別活動の内容1「学級活動」について
5. 特別活動の内容2「生徒会(児童会)活動」について
6. 特別活動の内容3「学校行事」について
7. 学校目標と特別活動の指導計画について
8. 演習1 学級活動の指導計画を作成する。その1
9. 演習2 学校行事の指導計画を作成する。
10. 演習3 校外学習を施設を利用して体験する。
11. 演習4 校外学習を終えて
12. 演習5 学級活動の指導計画を作成する。その2
13. クラブ活動と部活動との違い、部活動の教育的意義と課題について
14. 特別活動と社会とのかわり
15. まとめ

授業の方法

講義を中心に討議や発表を設ける。

準備学修

- 各授業に関連する内容について「中学校・高等学校学習指導要領 解説 特別活動編」を熟読し予習する。
- 自分の小学校から高校までの特別活動について整理をする。
- 特別活動の実践例など日頃から新聞等を見て整理する。
- Webで参照すること

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

学内の規定に準じる。

テキスト

文部科学省「中学校学習指導要領(平成29年告示)解説『特別活動編』」東山書店
必要に応じて資料を配付する。

参考図書

- ・他の校種の学習指導要領、特に「特別活動」
- ・学級・学校文化を創る特別活動【中学校編】 東京書籍 国立教育研究所 教育課程研究センター
- ・「社会力を育てる」岩波新書 門脇厚司著
- ・「学校の社会力」朝日新聞 門脇厚司著など

留意事項

教職を目指す学生として、講義内容をただ受容するだけでなく、現在の社会に目を向け、主体的に考え課題意識をもって捉える姿勢でのぞむこと。

ET 教職科目 <ET 教職科目>	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
特別支援教育(中高)			14187	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
瀨田 誠二郎	選択	2	公立小教員、学校心理士SV、臨床心理士、上級教育カウンセラー、教育委員会			

授業の到達目標

特別支援を必要とする幼児・児童・生徒の実態を理解したうえで、個別の指導計画及び教育支援計画の立案方法を理解する。
このクラスでは、KAISEIパーソナリティのA(自律)とI(知性)の育成を目指す。

授業の概要

特別支援を必要とする幼児・児童・生徒への理解を深め、より良い教育課程や支援を理解する。発達に課題があるなど障害種にかかわらず、幼児・児童・生徒が「生きる力」を身に付けることができるよう、個別の教育的ニーズを理解し、教員として、また、学校がチームとして求められる支援の方法を考察する。

授業計画

1. 特別支援教育(インクルーシブ教育含む)の理念や制度
2. 発達障害を含む特別な支援を必要とする幼児・児童・生徒の困り感
3. 発達障害を含む特別な支援が必要な幼児・児童・生徒の心の発達
4. 障害のある幼児・児童・生徒の困り感
5. 障害のある幼児・児童・生徒の家族、特に母親の気持ちに寄り添う支援技術
6. 障害のある幼児・児童・生徒の保護者・兄弟姉妹・祖父母等の障害受容
7. 合理的配慮の必要性和生活上の困難に対し主体的に取り組む自立活動
8. 障害のある幼児・児童・生徒の教材選定
9. 通常学級でのスモールステップ支援と通級指導による指導の時間
10. 構音障害等通級教室の活用によるチーム支援
11. 様々な障害種、重複障害と個別的教育支援
12. 特別支援教育コーディネーター等との連携
13. 障害種に応じた様々な関係機関等との連携
14. 障害のある幼児・児童・生徒以外の個別的教育支援
15. 外国から移住してきた幼児・児童・生徒の学習、生活面での支援

授業の方法

講義、発表とワークショップ

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法

定期試験80%、授業最後に提出するレポートと振り返り20%

欠席について

学内の規定に準ずる

テキスト

必要に応じて指示する

参考図書

子どもの発達障害と情緒障害(杉山登志郎、講談社)

留意事項

必要な場合授業時に指示する

教員連絡先

shamada@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと